

地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～ 「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ ～

「第1回ケア・カフェきたそらち

在宅での生活の支え方を考える開催報告

- ・ 日 時 6年10月10日(水) 18:00～19:03
- ・ 開催方法 オンライン(ZOOM)
- ・ 主 催 北空知地域医療介護確保推進協議会
- ・ 参加者 48名(事前申込者49名 欠席1名)
(市町別: 深川市32名、妹背牛町3名、秩父別町0名、北竜町8名、沼田町4名、滝川市1名)
(職種別: 医師1名、薬剤師1名、看護職16名、保健師8名、介護支援専門員3名、介護福祉士4名、社会福祉士3名、ソーシャルワーカー1、相談員2名、管理者2名、管理栄養士1名、リハビリ職2名、事務職3名、その他1名)
- ・ 目 的 北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。



総合司会は多職種合同研修企画小
部会三井委員(保健所)です。





開会挨拶は、
深川市市民福祉部高齢者支援課の
北垣課長(運営会議座長)です。

今回の話題提供は 9/26 に開催された北空知看護研修会
での講演と事例報告を受けて意思決定
支援についてグループワークで掘り下げる2部
構成としました



在宅療養における意思決定支援

在宅療養者は、病気や老いによって、これまでの自分とは違う何かを失っていく過程にあります

本人や家族が自己決定に導かれて、望む形で療養生活を送るための支援です
日々の生活の仕方を定め、どのような療養生活を送りたいのか？
どのように生きていきたいかなど、療養者の意思や希望を引き出し、
決められるよう支援（意思決定支援）する

意思決定不全は、医療者とのコミュニケーション不足や関係性が構築できないことが、
意思決定不全の原因となる

○令和6年度第1回研修会は、9月26日開催の北空知看護研修会
において『在宅での生活の支え方を考える』をテーマとし専門職
の講演と具体的なケースの報告を従来の情報提供とし、研修会か
ら見えた課題・意見をケア・カフェ形式で会話しながら理解を深
めることとしました。また引き続きオンラインとしました

○北空知看護研修会の経緯としては、稚内は北空知管内と同じく、
基幹病院が稚内市立病院1つであり、社会資源も多くないことか
ら、同様の悩みや困難さがあると感じているのではと考えて依頼
訪問看護の役割、できることを知ってもらうこと、在宅での生
活支援を学ぶこと、連携において必要なことを考えることを目的
としました。研修会には103名の申込があり、うち保健師を含む
看護職が6割、その他地域の医療保健福祉職に多く参加しました

○今回のケア・カフェの話題提供の内容としては、上記の研修会に
おける「チームで支える在宅ケア みんなが一步前」というテーマ
で、稚内訪問看護ステーション古川所長の講義を受けこれを元に
グループワークで課題をさらに深めることとしました

○末期や認知症の事例から、最後まで自宅で過ごしたいという気持
ちに寄り添う意思決定支援についての話や、利用者のために共通
認識を持ちながら互いに気持ちよい連携ができるよう心がけて
いるとの話がありました

○実践報告では、訪問看護ステーションいしずえから本人の辛さを
共感的に受け止め、利用者の思いに寄り添う支援についての報告
や、保健所からは、人工呼吸機を装着して在宅療養されている方
について支援者が諦めることなく、本人と妻の意向を丁寧に聞
き、今ある資源で意向を叶えられる方法を探ることができたとい
う報告があり、本人の意思決定支援や連携の重要性について考え
る機会となったことが報告されました

実践報告

「人工呼吸器を装着しながら在宅療養を続ける
ALS患者・家族への意思決定支援」

R6. 9. 26 令和6年度北空知看護研修会
北海道深川保健所 健康推進課健康支援係 保健師 宮下



これらを受けて、

『在宅での生活の支え方』とは？



何があればできますか？
どうしたらできますか？
大切なことは何でしょうか？





今回のカフェマスターは訪問看護ステーション
いしずえ所長の正田さんが担当していただきました。
お忙しい中ありがとうございました！！

今回のテーマ



～アンケートから～

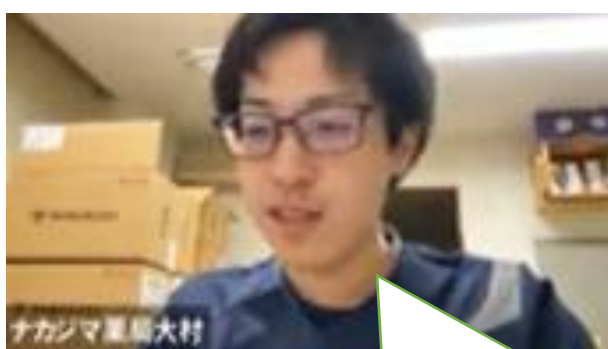
- ・思ったよりも構えることなく参加することができた。様々な地域で職種の方のお話が聞けて、とても参考になりました。
- ・支援するうえで難しいと感じていることなど情報交換はできましたが、時間が足りなかったです
- ・時間が短く、深い内容になる前に終わってしまい残念でした
- ・同じグループに医師がいて、考え方を聞いたのはよかった
- ・職種によって、視点も違い色々な思いもあるように感じた。
- ・意思決定支援やバイタルリンクなど今後活用して、利用者さんが独居になっても住み慣れた地域で過ごしやすいように、支えられ、考えてあげられる事は大切だと思いました。
- ・業務上の悩みを共感していただき、励みになったため
- ・和気あいあいと話ができました

Chat1・2では5～7人のグループに分割しました。
Chat1が事務局の設定ミスで20分の予定が半分の10分で終了してしまいました。
すみません…。





実際に身内に介護が必要な状況になった時にどこに相談したらいいのか、漠然とした介護家族側の不安感についてのお話が出ていました
妹背牛町地域包括支援グループ末岡さん



残った薬を持参される患者様が多い。どうやって薬を減らしていくか。お薬カレンダーでの管理を提案しているのが実情
ナカジマ薬局大村さん



マンパワー不足は否めないが在宅の本人や家族のニーズをしっかりとつかむことが大事。市立病院では月1回総合診療科を開設しているので是非ご相談を
深川市立病院院長新居さん

～グループワークから～

- ・利用者、家族の気持ちに寄り添っていくことは基本的なことだが難しい
- ・意思決定支援は、本人の思いと家族の思いが正反対なこともあり、難しい。関係性の構築ができていないと聞きづらい
- ・高齢男性の無気力さ、男性の社会参加が少ない。リハビリをするにも目標がなくうまく進まない
- ・男性でも何を食べようか考え、買い物に行くことが生きがい、楽しみと言う人もいます
- ・お金がない、支える支援者がいない方の自己決定支援が難しい

～参加者の声から～

- ・利用者本人の本当のニーズを実現するために、自分が支援を行っていく中で今後の利用者さんとの関わり方や信頼関係の作り方を改めて考える時間になりました。”正解がない”難しい問題ですが、様々な職種で連携ができていけばより良い在宅生活を支える一つになれるのかなと思いました
- ・zoomで実施するのはやりとりなどが難しいのではないかと思います。もしやるなら対面で実施したらよいのではないかと。
- ・参加メンバーが固定化されており、日頃の悩みはケアカフェでなくても相談できるので、無理に実施せず、他の部会でもたくさん研修があるので、頻度を減らしているのではないかと
- ・(今後聞いてみたい話)
法定後見制度・成年後見人について
保証人を立てられない方の支援方法や対応法
地域の医師の地域連携や在宅療養について
ACPについて